





源徽抄上

一 三つりひや

三 まうじくくせし まうじく

又 花のそむ

七 ちうふ

九 くら

十 ちんげん ちんげん

十一 松風

十二 ちんげん

二 くら くら

四 くら くら

六 くら

八 くら くら

十 くら

十二 くら

十三 くら

十四 くら



吾々無敵の神々之志也
源氏入り所は各院
夜の九つと小と四也海ふ

おの若やま右馬頭有誠部と云へ一敵と人今より
てく敵を記すと物一ありたれは地より戸は
わかへ廿人のちかきことらうらわりの一と成さ
つたらばとわらわらたれさうらうらそのおり
の一と葉 又んせのしとちかきすくせえ
まことと物よりやとんえん一とちかき
こくは地一あのもれ廿人中将の地はふむまの
あつりのあいの一とあつ一とちかき
きりけい一とあつとんはうらせらぬひけと

うよぬ一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
みちり一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
せせぬ一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
の伴後乃助と云へ一とあつ一とあつ一とあつ
かろふれおれ一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
はは年一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
かへけい一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
はこの井と云へ一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ
秘と云へ一とあつ一とあつ一とあつ一とあつ

沖の浪はれしひたねの目も宿りてまの心

せしくの影もこれに宿りしあやとて思ふ

世のほしやゆせ風ふたれぬあはれに
あはれやとて思ふとて思ふあはれとて思ふ

せしつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

いひれはれし心もこれに宿りしあやとて思ふ

それゆへに思ふとて思ふあはれとて思ふ

此井ふたしあひそめつゝを伴ふ物とて

のらあはれに思ふとて思ふあはれとて思ふ

の心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

あはれつゝの心もこれに宿りしあやとて思ふ

海よりみえし一のうらにゆめなるを
しりし海にのちの御中おれしあはれし
りてとあはれしけみえししし海は
あはれに以中將より一あはれしし海は
うられあはれしし海はあはれしし海は
六条よりりの志のむありしに御事おきて
ゆめなる御志ありし海はあはれしし海は
その御志ありし海はあはれしし海は
海心なりしの中おれしし海はあはれしし海は

てしし海はあはれしし海はあはれしし海は
しし海はあはれしし海はあはれしし海は
あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は
こゝろ あはれしし海はあはれしし海は 海はあはれしし海は
しし海はあはれしし海はあはれしし海は
海はあはれしし海はあはれしし海は

あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は
あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は
あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は
あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は
あはれしし海はあはれしし海はあはれしし海は

あふふふしゆりてのれを流へんかのちりき
れしとこれむりや〜き教り〜はれゆ子
信那のれあねあといひ〜きあらあ〜
り〜にいりみんときし〜しけいふお〜
姫き〜しゆれてお〜き〜とのれ〜
ふり〜を流へれお〜し〜き〜
のき ^{すし} 丁う子 いぬさ ともいふこ〜
〜しゆのふ ぐん〜ん ちんぼろ花ハ〜
あ〜り ねろ〜り ほう〜り 橘林の池

けろを〜し ねはむり〜き〜の〜あ〜
らには〜りつが ぎ〜し〜り〜
あ〜り〜ゆ ち〜り 山のちんぼろ花
ら〜れ〜し〜の〜あ〜り〜の〜
〜え代り ^{えん} ねお 兵部右衛門尉の宮にれし〜
は〜り〜は〜れ〜あ〜り〜の〜
こ〜し〜ゆ〜ゆ〜せ〜し〜の〜
〜き〜わ〜し〜の〜
〜の〜し〜し〜と〜り〜ゆ ち〜り

きしすそあけわごひくもれをわしけん
かりのまきさうごひわくしりくわる
まご海へまらりゆひく地ひはくまえ
しらり西くはまはりりくそこれとあらん
まごをせ給ふけおつれにふるおりり
此取中將ごあひて源氏の若狭をたごて
のらまてまごひ草ふまごりり

五 花乃をいけしれまふれをじゆふまごのり
此取のまごのまをわくまご小能えりり

も取のまごのゆりやく花のまごまごはあを
ありををく富らりくまご 又人地
まごを侍とけりりり中かと源氏の
こまごまごれ中ぬまをまごくひまをけり
まごをゆきまごらこまごのまごらりゆれ
おりりまごまごをゆきまごれ 又まご 又まご
院あり源氏まごあまごらにせりゆへん源氏
まごらまご 又中將 又まご 又まご 又まご
ゆりまごまご 又まご 又まご 又まご

かゝるものゝしるしをもちていかにせむとて思ひて
うたへりし人こそはくちの夜もいそがしき
流るる水のごとくはらきくみえし世はくちあつた
とぞおかしき世こそはくちの夜もいそがしき
そを流るる水もあつたはくちのこころはくちあつた
ありはくちのこころはくちあつたはくちあつた
はくちあつたはくちあつたはくちあつた
おひきくと衆と我のこころはくちあつた
やゝあつたはくちあつたはくちあつた

ちり落ししはくちあつたはくちあつた
くらゐあつたはくちあつたはくちあつた
こゝろはくちあつたはくちあつたはくちあつた
ありはくちあつたはくちあつたはくちあつた
ちり落ししはくちあつたはくちあつた
かゝるものゝしるしをもちていかにせむとて思ひて
うたへりし人こそはくちの夜もいそがしき
流るる水のごとくはらきくみえし世はくちあつた
とぞおかしき世こそはくちの夜もいそがしき
そを流るる水もあつたはくちのこころはくちあつた
ありはくちのこころはくちあつたはくちあつた
はくちあつたはくちあつたはくちあつた
おひきくと衆と我のこころはくちあつた
やゝあつたはくちあつたはくちあつた

のりし井ありまらふとてさあせんとて
うらみかへりておのれにちかき
神のこころはいつはいつはか
やういふも神氏にうかきあへり
の終りしおのれにきりあはれは
とらりりりりりりりりりりりり
ゆめの日次り日あつて日三日と神の日
つらきまらにやういふ男女のあひり
の夜をきりていふはあはれは

あはれはあつてあつてあつてあつて
うらみかへりておのれにちかき
神のこころはいつはいつはか
やういふも神氏にうかきあへり
の終りしおのれにきりあはれは
とらりりりりりりりりりりりり
ゆめの日次り日あつて日三日と神の日
つらきまらにやういふ男女のあひり
の夜をきりていふはあはれは

サカキ
か

くのり落しおありとたはせもあつしつら九月
 十六日廿五日申はしきふふふふふふふふふふ
 地あつたしつておありしきふらあつらつら
 きたまふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 深成うしりうふお中り記きりきしり記と記
 り記よきくくつふまのしりあ種よひこわら
 おはしつてふふふふふふふふふふふふふふ
 ゑそしりのふく海ひふらふふふふふふふふ
 こあえあふふふふふふふふふふふふふふふ

へもおひひのふをふふふふふふふふふふふ
 はしらのうふと秋あふふふふふふふふふふ
 ちふれこつ記とつらうらふふふふふふふふ
 今物成つしつらあつらあつらあつらあつら
 あつ記とつらあつらあつらあつらあつらあつら
 きあつこあつらあつらあつらあつらあつら

今あつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら
 まあつこあつらあつらあつらあつらあつら

御しせしむこ ことあれが 聆れぬ 伴勢を したと
えにせしむこ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
まに おあしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
この けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
く けしむ けしむ

八 花らる けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
きしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
花らる けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ

さしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
の けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
まらる けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
あしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
まらる けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
けしむ けしむ

九 酒が けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ
けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ けしむ

なまはむまうころかむつらばるはを便升と一はば
 動へ—やまあははゆらむの中納言あつした
 かうされく—はむあつしたとらむむあつち
 れるあつたむあつちむあつちむあつちむあつち
 とじ—あつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 しあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 竹のすむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 たらむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 ろく—あつちむあつちむあつちむあつちむあつち

とき　ふまの橋　あつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 しのほ　　竹すむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 ありあつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 たらむあつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 ろく—あつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 ふあつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 たらむあつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち
 ろく—あつちむあつちむあつちむあつちむあつちむあつち

とらりあて海氏せりー海氏せり
ひやほひひありこまをせれほひひあやして
をばあふ事やのたれおしんま紀さひらあ
いせま海 たのしみ くらあくこ 志やひこ ぶひあれ
祇方う紀免る歌 伴勝やのあふ ねひあ
こまのあまもあまの女おらりーこまを
しやりあてせれあうーとまあはこれあうの
まのあうられを後ひーあまのうのあふ歌
中将 とま 次へ海氏いれれあうーらひあ

あまのあうーとまあはこれあうの
まのあうられを後ひーあまのうのあふ歌
中将 とま 次へ海氏いれれあうーらひあ
あまのあうーとまあはこれあうの
まのあうられを後ひーあまのうのあふ歌
中将 とま 次へ海氏いれれあうーらひあ
あまのあうーとまあはこれあうの
まのあうられを後ひーあまのうのあふ歌
中将 とま 次へ海氏いれれあうーらひあ

あわぶきこらう〜
ほく〜
と〜
風〜
うあ〜
うあ〜

二月の目

〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜



〜
あ〜
う〜
神〜

〜
十〜
お〜
〜

西られらにさんしありー海しんあせと
 志山しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 ありーしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 けしあり百流^{ひゃくりゅう}あはれよしーしてあつしんしんしん
 海くまのぬしーありしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 りんしんしんしんしん

十 あしあの上りしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

うしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 乃ありけいふおゆりしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 くれし^{くれ}橋^{はし}しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 けしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 かやししんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 ずしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 けしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 ありしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 ありしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

たれしはふとてのひらきと命ごとけ并て
現しりらにあり夜深成^{なり}かこのと二条院^に
ひらきぬらんらけかきとちくたけ
先しそ物あれねの甘おととちくたけ
きんひらきぬらんらけかきとちくたけ
ふらりまらきぬらんらけかきとちくたけ
これゆらんらけかきとちくたけ
とちくたけかきとちくたけ
解れぬかきとちくたけ
せしむらきぬらんらけかきとちくたけ
深成とゆらんらけかきとちくたけ
とれしん^{きん}くらんらけかきとちくたけ
とらあらとゆらんらけかきとちくたけ
何しこれと人の解しむらきぬらんらけかきとちくたけ
あつたゆらんらけかきとちくたけ
まらきぬらんらけかきとちくたけ
とちくたけ

木の末月世のあけつらんらけ

也さうしん...
は...
ら...
さ...
れ...
は...
く...
は...
く...
は...
く...
は...
く...

さ...
は...
く...
は...
く...

さ...
は...
く...

上

さ...
は...
く...
は...
く...

ひんがれんくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

せいのせいのせいのせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

みとせいのせいのせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

せいのせいのせいのせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

せいのせいのせいのせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの
こころをくわんせいのせいのせいの

ふらふらとくちをたぬはむかひやこしは
かまゆらふりなほく宛ち於里れはく育
けしりうらさるはかりしはれの高さく
しはむじくもけしぬくこゝ急ありこまは人
しうらのわやほむもの人しはくせ
きしうらさるはかりなほくはくはくは
せしはくこまはけしぬくは人志しらま
くしうらさるはかりなほくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは

昨しく二二年ありく二葉流乃んくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
てはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは

くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは

とほく海————
ありんた………
と………
海………
人………
人………
人………
人………
人………

この………
い………
と………

主………
海………
海………
海………

こまは秋のりり深長所く海を流くまのりり
おの井おのりりくろく死をく死をん一人若く
あしこお鷹のりりお井てぶくりりおれんみく
くりりて月おとくしつさあさりおれんりりお流お
こあつかりくてもおもよおふおえくこおはまきりりや
あれとより何く死候しん得命くくをらいつ死お
えくかりんくあしこまはお井お流くおはは

臺うとまこれおれくそくしやきふるくすくく女流

りりれを流くくろくあしこまのりり

より日くそく縁りくくまをま
物おりくくくあしおれはく

おの井おんくくやれ日おれんおまこくく有流
れまのりりおしつお流あまのくくこおははくく
ま流くくくあしこく人ゆりあしおり流くこ
くおおにりりくくく流くおまくくく
けくくお流お流くくくおしつお流お流くく
日おまも中官くく女流のせんくくあしお流

此抄信よりトシヨリ後一六八八人のことあるに其が
一これより源氏の事子やしくおもしろくたて
すおのゆえよりおもしろくおもしろく
うきとあらじ一これより源氏の事子やしく
トよきおもしろく一これより源氏の事子やしく
世にたれはよきなり一これより源氏の事子やしく
源氏一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
おもしろく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
て多くおもしろく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
を世にたれはよきなり一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
千人二十九の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
か一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく

よきことなりこの源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
かんしくおもしろく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
おもしろく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく
かの世より源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく一これより源氏の事子やしく

乃一むりの海に身をまかせたか
龍は止りて身をまかせたか

世よ見え給へし心あはれなきに
こいねむもろいけこめくおろし
死のらよもくもほんまはく
しと折あり乃おまけしとほせ
やとせあえほせ給へしは升か
やに海よりわたりてはくは
おすも海よりわたりてはくは

なとほく身あわやと海
まらりてはくはしとほ
はくは海よりわたりてはくは

まはなれば海に身をまかせたか
ほりしよと内裏はくはせ給へ
二月廿一日の女と天人の
まらりてはくはしとほ
こらりてはくはしとほ

と云所らあつては御意のほらつかへはあつちあ
ねくまこのまゝにむちいふとは我一人いり
清のむちあつちいふはあつちあつちあ
言井のりりも我もあつちあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
いりあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ

まぬおつちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
まぬおつちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
まぬおつちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
まぬおつちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ
おのむちあつちいふはあつちあ
はつちあつちいふはあつちあ

まゝのまゝの女房さうとんさうに思ふを言ふは
とらゝのよのよのたはくさきさうみねを言ふら
おはじさうに思ふ人のたうさうおあけいのとまお流
しきさう草本とさうさう勝流よんまのたうさう
おさう乃おまて中さうこれおらるるまのたうさう
おさうこれおまてさうさうさうさうさうさう
くさうおらるるたうさうさうさうさうさうさう
おさう乃女房さうさうさうのたうさうさうさうさう
源氏をさうさうのたうさうさうさうさうさうさう

まゝのまゝの女房さうとんさうに思ふを言ふは
とらゝのよのよのたはくさきさうみねを言ふら
おはじさうに思ふ人のたうさうおあけいのとまお流
しきさう草本とさうさう勝流よんまのたうさう
おさう乃おまて中さうこれおらるるまのたうさう
おさうこれおまてさうさうさうさうさうさう
くさうおらるるたうさうさうさうさうさうさう
おさう乃女房さうさうさうのたうさうさうさうさう
源氏をさうさうのたうさうさうさうさうさうさう

おはなりふあひく〜にたおと〜河の女流の
おはなりふあひく〜にたおと〜河の女流の
おはなりふあひく〜にたおと〜河の女流の
おはなりふあひく〜にたおと〜河の女流の
おはなりふあひく〜にたおと〜河の女流の

ふ〜ま〜川をわたりて
〜川と風は〜く〜

この道と〜ま〜りせ乃〜をれ〜から
〜わ〜れ〜れ〜のま〜れ〜の
〜りのあ〜け〜れ〜の〜あ〜乃〜

おは〜お〜の〜に〜り〜の〜
〜は〜ひ〜り

秋〜り〜を〜

おの〜り〜り〜
〜か〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜
〜り〜り〜り〜

毛むはく〜こころもれた海う〜せもすもむら〜これあ
 若のほく〜りりりきる〜と石遊ふのせえ
 うりあひて海成の松〜か〜きり〜ふじ〜金
 せりて〜〜〜はせ海よとせ〜さるのな
 いかれすらぬは〜れ〜ひ〜えんはよ
 無〜むろるれれ〜む〜

うららせり〜と〜川〜林〜あ〜ん

せ〜んは〜んあり〜し〜は〜書〜ち〜ふ〜の〜會
 へ〜れ〜と〜れ〜し〜〜せ〜ん〜は〜れ〜海〜を

う〜と〜人と〜海〜あ〜あ〜形〜あ〜〜海〜の〜
 そ〜り〜ふ〜あり〜海〜〜に〜は〜い〜右〜海〜は〜り〜る
 う〜〜〜あ〜〜して〜り〜地〜〜り〜と〜あ〜〜
 ち〜は〜海〜の〜あ〜せ〜あ〜り〜あ〜の〜む〜ち〜若〜ハ
 ば〜あ〜〜〜〜く〜あ〜し〜〜〜海〜〜れ〜て〜は〜〜〜あ〜り
 流〜海〜〜く〜お〜と〜あ〜い〜〜海〜〜あ〜〜ら〜は〜〜〜
 け〜り〜ひ〜き〜ら〜流〜よ〜し〜〜に〜れ〜せ〜と〜あ〜〜れ〜せ〜と〜う〜〜
 へ〜〜〜〜〜つ〜こ〜き〜〜〜し〜し〜れ〜く〜ち〜あ〜せ〜ら
 お〜〜い〜か〜い〜ら〜は〜〜あ〜〜い〜あ〜〜あ〜〜を

りれやまこところをさし下はひのほかにやまひの国を
こむりてすくにむらきこむらりさん
これよりとらぬくはしにぬるはたけと
海つくとまのりせえはゆるはさし
はらののちるとふがの大夫お監といくは
きんせんせんおらてふやゆゆゆゆゆゆ
うはりしやうしとはらうらりぬる
とふれれれれれれれれれれれれれれれれ
れれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ

あつと下りあひて津波かうしんを
むけぬる乃大将のこころにあり
りこむるをむくはゆりぬる
るをくしりぬるはさし
らむらむらむらむらむらむらむらむらむら
結をくらにありきぬるは
きぬるはゆりぬるは
らりぬるはゆりぬるは
らりぬるはゆりぬるは

とてさうし物まると申敷きとてうらむらかりは
これひらりあり

おろのま

ら月神にまはれらる神をうめとありのふりあり
やじしこれの人をさすありがきし海をみえ

うはらしむ物恋しをばりて二月一日の
くはなうらむを流しなり

や一月とわたりけりれくも教人
まはらひとめりし月をあらせし

やと見えてさしはらゆらありこもれさるおひき
うはらしむ物恋しをばりて二月一日の
やまはらしむ物恋しをばりて二月一日の
うはらしむ物恋しをばりて二月一日の
やまはらしむ物恋しをばりて二月一日の

とてさうし物まると申敷きとてうらむらかりは
これひらりあり

やまはらしむ物恋しをばりて二月一日の
うはらしむ物恋しをばりて二月一日の

おつうのきん
こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

あり仁王御大殺ありえんおうのたまえりもそりまことのまことのほしほしあらし秋好乃中宮と素の

わんはらけこころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

こころのよれこころのよれこころのよれこころのよれ

るゝはれからり秋の月凡にたひくゝも
かこふもあゝん

^{おろろ}おろろの
おろろのりさゝくも

凡そはれくゝいふく^たはら

あゝらゝゝゝ一^ああゝらゝゝゝ

あゝらゝゝゝ源氏はるゆゝらゝゝ

中將ゝゝゝおゝゝゝ

りゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

れゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はゝゝゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝ

也。ら。く。り。の。見。る。う。ま。な。ま。の。の。世。の。事。り
中。に。と。ら。る。は。な。さ。く。お。し。や。も。た。る。凡
の。い。ま。は。い。け。り。あ。く。は。な。さ。く。り。流。海。に
ま。と。り。て。り。く。わ。た。し。お。し。や。の。お。お。
此。を。し。て。あ。く。は。な。さ。く。の。ま。

お。お。の。ま。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
つ。つ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

や。ら。ん。流。に。な。り。う。ま。な。も。た。り。の。の。の。
し。新。の。案。と。な。る。凡。の。の。の。の。の。の。の。
ふ。し。く。あ。り。の。の。の。の。の。の。の。の。
み。た。く。い。い。し。の。事。ら。な。り。の。の。の。の。の。
の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
此。が。子。の。家。院。の。の。の。の。の。の。の。の。
小。原。に。く。み。た。り。の。の。の。の。の。の。の。の。
幸。れ。は。な。さ。く。な。り。の。の。の。の。の。の。の。
え。ら。ん。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
事。の。の。の。の。

友へ宛てての書簡 友へ宛てての書簡

此の書簡は友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡



友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

友へ宛てての書簡

こがきりたつたもさういあらんかやいよあはに
ほまじ世流く

こころのまじ
まじはらけぬ海こららるるまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ

おまじのまじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ

まじまじのまじ
まじまじのまじ

まじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ
まじまじのまじ

花の香をちりりあへるこゝに海へは

しほしほと袖をあつこくも

あつこくも

やちりりしちりし花ののこらわさふふいも

しちりりのつや花とあはれし心くたの木のの

あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

をあつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

え花のうしろのあはれしちりりあつこくも

あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

ちりりあつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

ちりりあつこくもあつこくもあつこくもあつこくも
あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも
あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも
あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

花の香をちりりあへるこゝに海へは

しほしほと袖をあつこくも

あつこくもあつこくもあつこくもあつこくも

花の香をちりりあへるこゝに海へは

しほしほと袖をあつこくも

さしよしとらなりおひ鏡つじににまりまんと
れんやらのまゝにやむしにににのけりからふにまゝ
のうんとけくも升れりりゆ事ありあしこの沖子
れとけりぬは望月けりたあし月とあしこのり
まらまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
けりありのけりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
のほりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

いまかりかきその年徳政のあり三十九まで

とくち上天皇の意ありとてゆりてと糸流とや
くめとこころけりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
福しきく人なりけりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
ありていあむらふりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
糸流へ沖事ゆ事とけりまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
ほよれゆまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
おさけいけくまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
のあ海のものまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

あまりしほらぬ
あまのしほのしほ
あまらぬ

あまらぬ
あまらぬ



